



島根県神社総代会		島根県敬神婦人会		島根県教育関係神職協議会		島根県神道青年協議会		島根県氏子青年協議会		島根県女子神職会		事務局		参事局		録事							
会長	副会長	会長	副会長	会長	副会長	会長	副会長	会長	副会長	会長	副会長	会長	副会長	参事	主事	録事							
木佐明宏	吉崎博章	千家礼子	福代俊子	宮崎悦子	廣江直澄	陶山浩正	山崎寧子	諏訪邊裕之	秦祥岳	今井登美子	富永啓嗣	福岡真吾	森藤公夫	白鹿淳志	信高聖司	古瀬真由美	松岡祐子	野上郁子	金築知宏	村尾茂樹	和田晋爾	高見幸子	平林卓也

新年のご挨拶

島根県神社庁長

忌部 正孝



皇紀二六八六年・令和八年は六十年ぶりに力強い飛躍と繁栄の年と云われる

丙午歳を迎えました。新春を寿ぎ、先ずは皇室のご安泰、日本国の繁栄と世界の平和を祈年申し上げますと共に県内神社のご繁栄と神職及び氏子崇敬者の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り致します。

畏くも天皇皇后両陛下におかれましては上皇陛下の御心を継承なさり、昨年は大東亜戦争終結八十年の節目に硫黄島での戦没者慰霊を始め沖縄、広島、長崎をご歴訪遊ばされ祈りを捧げられましたこと、ありがたく拝した次第です。この期に靖國神社を始め、全国護國神社では終戦八十周年大祭が執行さ

れ、国家国民の為に散華された英霊に對し、感謝と慰霊の誠を捧げました。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては令和十五年第六十三回式年遷宮に向かい、昨年は山口祭、御杣始祭を始め諸祭が行われいよいよ本格的に準備が始まりました。今年は四月からお木曳行事が執行されますが、各県においては遷宮準備委員会の設立が始まり、遷宮に向けて神社関係者心一つに力を合わせて神宮大麻頒布と遷宮事業完遂に奉賛の誠を捧げたいと存じます。

一方、国内の情勢に目を向けると昨年十月には初の女性総理の誕生と高市早苗内閣の発足により、皇室の伝統を重んじた皇位継承制度の確立と憲法改正、靖國神社護持問題に更なる前進が図られることに期待するところであります。本県におきましては、神社庁役員改選に伴い、昨年六月の協議員会で役員の新体制が決まり、第一歩を踏み出しました。目下、山積する課題解決のために神社庁運営検討委員会、過疎地域神社活性化推進委員会を立ち上げて鋭意努力致しているところであります。

また、毎年開催してまいりました県神社関係者大会は一昨年より三年に一度の開催に変更となったため、昨年も十一月十二日の神社庁神殿例祭に併せて恒例の各種表彰伝達式を執り行いました。永年斯界のために貢献され受賞された神職、役員総代の皆様、又神社護持のために多額の浄財をご寄付下さった方々に深く感謝申し上げます。今年のご健勝と弥栄をお祈り致します。今年には三年に一度の県神社関係者大会を九月に出雲市において開催する予定です。是非大勢の方々にご参集いただき充実した大会に致したく、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

結びに当たり出雲、石見、隠岐をお護り下さる神々のご加護のもと氏子崇敬者の方々のご家庭と地域の繁栄をお祈り致し、併せて奉務神社の維持とご神徳の昂揚並びに県神社庁の活動に對して更なるご尽力とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

島根県神社総代会長

木佐 明宏



明けましてお
めでとうござい
ます。

令和八年丙午
の新春を迎え、

皇室のご安泰と、神宮をはじめ県内神
社のご隆昌、更に皆様方のご多福をお
祈り申し上げます。

常日頃より、氏神様、崇敬神社の護
持運営はもとより、島根県神社庁並び
に同神社総代会の事業推進に格別のご
理解、ご協力を賜っていますことに厚
く御礼申し上げます。

畏くも天皇陛下におかせられまして
は、日々祭祀、公務に御精励遊ばされ
ておりますこと、有り難く慶賀に堪え
ない次第であります。天皇皇后両陛下
は、昨年終戦八十年の節目の年に当り、
例年の行幸啓に加えて、硫黄島、沖縄
県、広島県および長崎県など各地にご
訪問なさいました。各々の慰霊碑にご

拝礼遊ばされて、戦陣に散り戦禍に倒
れた人々の御霊を慰め鎮められる御姿
に、感激を禁じ得ません。両陛下のご
健勝をお祈り申し上げる次第です。

さて、本宗と仰ぎます神宮におかれ
ましては、昨年より「第六十三回神宮
式年遷宮」の遷宮諸祭、諸行事が順次
執り行われておりますこと、ご同慶の
至りに存じます。古来、ご遷宮は国家
の重儀として持統天皇の御代に初めて
斎行されてより千三百年の間、先人が
努力に努力を重ね、万難を排して斎行
されてきました。いよいよ近づいた式
年遷宮の奉斎活動について、我々に課
せられた使命は誠に重大なものである
と存じます。皆様には、令和十五年秋
のご遷宮に向け、何とぞご協力を戴き
ますようお願い申し上げます。

県神社総代会では、昨年七月に役員
改選が行われ、私こと、僭越ながら会
長に再任され、重責を担うことになり
ました。神社を取り巻く環境は厳しさを
増し、将来にわたって維持管理してい
くうえで数々の問題に直面しており

ます。吉崎、高橋両副会長を始め役員
が一致団結し、運営に努力致す所存で
ございますので、皆様方のご指導、ご
協力をお願い申し上げます。

県神社総代会の歩みも五十年以上に
わたり歴史を重ねてきました。今こそ、
大御代の弥栄と斯道の興隆のため心血
を注がれた先人達の苦勞を忘れること
なく、その崇高な精神を次代に継承発
展させていかなければなりません。共
にご尽力戴きたくお願い致します。

結びに、本年こそ平和が回復し、安
寧の日々が訪れることを祈念し、年頭
のご挨拶と致します。



月	日	曜	主催	行事	場所
6	未定		中国地区氏青神青	中国地区氏青神青合同研修会	岡山県倉敷市
	未定		神社庁研修所	研修所講師会議	神社庁小会議室
	未定		神政連本部	本部長・事務局長会	神社本庁
7	8	水	県神社総代会	総代会監査会	神社庁役員室
	8	水	〃	代議員会	神社庁大会議室
	8	水	日本会議島根	理事会	〃
	8	水	島根県神社庁	関係者大会打合会	神社庁小会議室
	8	水	〃	総務委員会(県規程表彰審査)	神社庁役員室
	18	土	全国氏青協	全国氏子青年協議会定期大会	静岡県静岡市
	未定		島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
	未定		〃	国民精神昂揚研修会(教化委員総集會)	神社庁大会議室
8	8(土)～9/4(金)		〃	階位検定講習会	神社庁研修室
	21	金	〃	監査会	神社庁役員室
	21	金	〃	役員会	〃
	27	木	〃	広島県神社関係者大会	広島県
	未定		中国地区神社庁	中国地区教化会議	鳥取県
9	7(月)～11(金)		〃	中国地区中堅神職研修(乙)	岡山県
	8	火	全国神社総代会	全国神社総代会大会	和歌山県
	9	水	島根県神社庁	島根県神社関係者大会	出雲市
	17	木	神宮	神宮大麻暦頒布始奉告祭	内宮神楽殿
	24	木	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	25	金	〃	神宮大麻暦頒布始奉告祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
	25	金	〃	支部長会	神社庁小会議室
	25	金	〃	総務委員会(本庁表彰審査)	神社庁役員室
	28	月	山口県神社庁	山口県神社関係者大会	山口市
	29	火	全国敬神婦人会	全国敬神婦人会大会	未定
	未定		神社本庁	神宮大麻頒布暦秋季推進会議	神宮会館
	未定		〃	神宮崇敬会事務局長会	〃
	未定		〃	神社庁長会	神宮司庁
	未定		〃	「皇室」普及委員会	〃
	未定		県氏青協	島根県氏子青年協議会定期大会	
10	15	木	神宮	神宮初穂曳	神宮
	17	土	大社國學館	大社國學館大祭	大社國學館
	未定		神社本庁	評議員会	神社本庁
	未定		島根県神社庁	神宮大麻発送	各支部へ
	未定		〃	広報委員会	神社庁小会議室
11	11	水	〃	祭祀委員会	〃
	12	木	〃	例祭・新嘗祭 (祭員→庁長・祭祀委員・神青・女子神、 奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
	17	火	〃	総務委員会	神社庁役員室
	17	火	〃	教化委員会	神社庁小会議室
	未定		中国地区神社庁	中国地区職員研修	山口県
	未定		神社本庁	全国教化会議	神社本庁
	未定		〃	〃	〃
12	9	水	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	10	木	〃	役員会	〃
	10	木	〃	身分選考委員会	〃
	10	木	〃	研修所企画会議	〃
	28	月	〃	御用納祭	神社庁神殿
	未定		〃	広報委員会	神社庁小会議室
	未定		県敬神婦人会	総会	未定

令和8年 島根県神社庁 年間行事予定表

月	日	曜	主催	行事	場所
1	5	月	島根県神社庁	御用始祭	神社庁神殿
	22	木	〃	正副庁長会	神社庁役員室
	22	木	〃	役員会	〃
	22	木	〃	神社庁新年互礼会	武志山荘
	23	金	島根県神社庁	新年祭 (祭員・奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
	23	金	神社庁研修所	研修所講師会議	神社庁小会議室
	24	土	〃	支部祭式助教研修会	神社庁祭式教室
2	8	日	県神青協	竹島領土平安祈願祭	神社庁神殿
	11	水	日本会議島根	建国記念の日奉祝行事	未定
	14(土)～15(日)		神社庁研修所	初任神職研修(前期)	神社庁研修室
	22	日	島根県	竹島の日記念式典	島根県民会館
	25(水)～26(木)		中国地区神社庁	中国地区神社庁連絡会議	岡山県主管
	27	金	島根県神社庁	祈年祭・神宮大麻暦頒布終了奉告祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
	27	金	〃	支部長会	神社庁小会議室
3	27	金	〃	運営検討委員会	神社庁役員室
	1(日)～3(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第1班)	伊勢市
	5	木	神宮	神宮大麻暦頒布終了奉告祭	内宮神楽殿
	8(日)～10(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第2班)	伊勢市
	16	月	神社庁長懇話会	神社庁長懇話会	神社本庁
	17	火	神社本庁	神社庁長会	〃
	17	火	大社國學館	卒業式	大社國學館
4	未定		神社本庁	神宮大麻暦頒布春季推進会議	神宮会館
	未定		〃	「皇室」普及委員会	神社本庁
	17	金	大社國學館	入学式	大社國學館
	14	火	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
	18(土)～19(日)		神社庁研修所	初任神職研修(後期)	神社庁研修室
	22	水	〃	岡山県神社関係者大会	岡山県
	未定		全国神社総代会	総代会幹部研修会	未定
5	11(月)～15(金)		中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(甲)	山口県
	14	木	出雲大社	出雲大社例大祭	出雲大社
	19	火	全国神社総代会	代議員会	神社本庁
	20	水	神社本庁	神社本庁設立八十周年記念式典	明治記念館
	21(木)～22(金)		〃	評議員会	神社本庁
	22	金	〃	班幣式・神社庁長会	〃
	未定		島根県神社庁(院友神職会)	在京院友神職・学生懇親会	東京
6	3	水	島根県神社庁	総務委員会	神社庁役員室
	3	水	〃	教化委員会	神社庁小会議室
	5	金	神宮	評議員会	神宮会館
	9	火	神政連本部	中央委員会	神社本庁
	9(火)～10(水)		神社本庁	事務担当者会	〃
	17	水	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	18	木	〃	役員会	〃
	18	木	〃	身分選考委員会	〃
	24	水	〃	支部長会	神社庁小会議室
	24	水	神政連県本部	代議員会	神社庁第二研修室
	25	木	島根県神社庁	協議委員会	神社庁大会議室
	28	日	日本文化興隆財団	全国神社検定	神社庁研修室

初任神職研修

【主催】 島根県神社庁研修所
【期 日】 (前期) 令和八年二月十四日(土)～十五日(日)
(後期) 令和八年四月十八日(土)～十九日(日)
※四日間研修を右二日間ずつ分割実施する。

【会場】 『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地
神社本庁研修規程に基づき、新たに任用された神職に
対し、神社本庁・神社庁の組織を明確にせしめ、本庁
包括下の神職としての自覚と連帯感を養う。

神職任用後五年以内に修了しなければならない必修研
修です。

※参考 神社本庁総合研究所研修規程施行細則 第二
条三号

【参加資格】 階位を有し、昭和五十年七月一日以降に宮司(代務
者)・祢宜・権祢宜・主典などに任用された者
二十名程度

【募集人員】
【申込方法】
【提出書類】 ○島根県神社庁研修所入所申込書
○履歴書
○書籍申込書

※申込内容は各自で把握出来るようにコピー等、控え
ておいて下さい。

○角三封筒(B5サイズの封筒)
※一八〇円切手を貼付し、本人の住所・氏名を記入し
て下さい。
令和八年一月二十日(火)までに神社庁必着でお願い
します。

申込締切

【入所許可】

入所申込者に対して書類選考を行い、入所許可を通知
します。

※なお、入所許可の通知に併せて『研修生名簿』、『研
修生活の葉』を送付します。

【必要経費】

研修費 二〇、〇〇〇円

【準備品】

教科書代 申し込みによる教科書代金

【装束類】

研修開催までに左記の通り準備して下さい。

【装束類】

○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンボリ)

○白緒草履二足(上履・下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)

【教科書】

※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。
各教科指定教科書(今回書籍を申込された方は、研修
初日にお渡しいたします。)

【宿泊施設】

諸事情により合宿は行わず通講制といたします。
宿泊が必要な方は各自手配願います。

【研修科目】

研修科目		時限	研修科目		時限
神宮史概説	3		神社本庁憲章	3	
敬神生活の綱領	3		神社本庁史(神社庁史)	5	
神社実務	5		祭祀関係実技	3	
伊勢の神宮と出雲大社(次代へ受け継ぐ悠久の神話と祭儀)				3	

【その他】

・研修期間中の欠席はいかなる理由があろうとも一切
認めません。
・不明な点は神社庁まで連絡して下さい。

島根県神社庁
住 所 〒六九九・〇七〇一
島根県出雲市大社町杵築東二八六番地
TEL ○八五三・五三・二二四九
FAX ○八五三・五三・二五八二

支部祭式助教研修会

教科書

○令和七年改訂版 神社祭式同行事作法解説
(令和七年初版) 二、二〇〇円

○平成二十年改訂版 神社祭祀関係規程
(平成二十四年改訂五版) 一、一〇〇円

※改訂版以前のものは内容が大幅に変わっておりますので、必ず改訂版をご用意下さい。

【主催】 島根県神社庁研修所

【期 日】 令和八年一月二十四日(土) 午前九時より受付

【会 場】 『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

【目 的】 支部祭式助教の研鑽と祭式指導者養成をはかるため。

【参加資格】 支部祭式助教、その他今後祭式指導者として適任と支部長が認め推薦する者。

【募集人員】 二〇名程度予定(各支部原則一名の参加を奨励します。)

※支部二名以上の参加を希望の場合、申込締切時点での参加状況により、参加可能であればご連絡致します。(二名以上参加希望の場合は、優先順位を記入願います)

【申込方法】

【提出書類】

研修申込書

令和八年一月十六日(金)までに神社庁必着でお願い致します。

【必要経費】

【研修費】

三、〇〇〇円

※別途教本代 申し込みによる教科書代金。

※同封振込用紙にて申込時に納付下さい。

【準備品】

研修会開催までに左記の通り準備して下さい。

【装束類】

○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンボリ)

○白緒草履一足(下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)

※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。

日 程

日 程	時刻
受付・改服	9:30
開講式	10:00
祭式研修 (基本作法の指導方法)	12:00
昼食・休憩	13:00
祭式研修 (小祭式)	15:00
休 憩	15:10
祭式研修 (小祭式)	17:10
閉講式	17:30
解 散	

【その他】

感染症対策について

・研修生の皆様には受講に際し、次のご協力をお願いします。

1、発熱等風邪の症状が見られる場合は、受講を見合わせてください。

2、受講にあたっては、感染予防策にご協力下さい。

3、研修中に窓を開放し自然換気を行う場合がありますので、十分な寒さ対策をお願いいたします。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

島根県神社庁

電話番号 ○八五三(五三) 二一四九



出雲市大社町

阿須伎神社

祢宜

錦織恵介

(昭和四十一年生)



今年は午年ですが、
取り立てて午年に
まつわる話題も持た
ない私は勿論ウマほ

どの馬力もなく、宮司である父の方針に従って神明奉仕をしている者に過ぎません。このたび原稿依頼を受けて、もしも私の経験が宮司の後継者として同じ立場にある神職の方々の参考になれば幸いと思って筆を執りました。

父は三十代半ばで祖父から宮司職を受け継いだ時、神職以外に法的な業務の事務所を持ち兼業していました。社頭の祭祀だけでなく氏子さんの家に祀ってある屋敷荒神・水神・山の神な

ど現地に行ってお祭りすることが多かったのですが、時代が移るとともに家の主人は近くの町に出て働くことが多くなりました。その人たちは「弁当産業が一番です」と言うようになりました。弁当をバイクに縛って仕事に出ることを冗談まじりに言ったものだと思いますが、農家の人も徐々にサラリーマン化し、家に行っても高齢者ばかりが留守番をしているようになりました。家祭の継続が困難になって父は父なりに苦労したと思いますが、祭祀の継続を第一と考え「荒神祭、水神祭」を年末の日曜日に一括して社頭で執り行うことに踏み切りました。

一方私は勤めていた福祉関係の仕事のかたわら父を助け、竹切り、御幣作り、シボ作りをほぼ自分一人でするようになりました。シボに入れる赤飯も我が家で炊き上げ、一切を拝殿に並べ、予め葉書で案内した氏子さんに集まっていただき祝詞を奏上し、お持ち帰りの上お納めいただくという方針をご理解いただきました。これにより氏子さ

んは安心して仕事に出ることが出来るようになり、父は家毎の直会に招かれることがなくなったので随分楽になりました。これについては様々な見方があるでしょうが、だんだん廃れていく家祭を守っていくことが出来れば幸いです。宮司の跡を継ぐ兼業神職としての私にとっては正直ありがたいことです。今後もこの習慣を続けていきたいと思うとともに、地域の実情に沿った神社活動の工夫の大切さを改めて感じた次第です。未熟者ゆえ思いの至らない点が多々あると思いますが、先輩諸氏のご指導を賜りながら成長していきたいと思っています。



シボ

鹿足郡津和野町

太鼓谷稲成神社 権宮司

すみ がわ なり あき
角 河 平 彬
(平成 年 生)



新春のお慶びを申し上げますと共に、皇室の弥栄並びに神宮を始め県内各神社のご隆昌と氏子崇敬者様方のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は戦後八十年の節目の年であり、また、秋篠宮悠仁親王殿下におかれましては、加冠の儀を滞りなく執り行われ、晴れて青年皇族に列せられた年でした。

また、令和七年は私事ではありますが、娘が生まれたので、忘れる事のない年となりました。

本年は、午年という事で、行動力が活発になる年、何か新しい事にチャレンジする年として古くから言い伝えられています。我々の先祖や諸先輩が守ってこられた古き良き日本の伝統や風俗を守りつつ、時代に寄り添って、崇敬者の方々がご参りしやすい神社作

りなど、新しい物事にチャレンジし、稲成信仰を多くの方々に知って頂けるよう、日々の神明奉仕に邁進する所存です。

結びにあたり各御社のご発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

隠岐の島町加茂

賀茂那備神社

権祢宜

野 津 哲 志
(昭和五十三年 生)



あけましておめでとうございます。

謹んで皇室の弥栄と神宮をはじめ県内各神社の御隆昌と氏子崇敬者の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年はこれまで助勤経験のない神社にご奉仕させていただくことが多い年でした。各地域の祭典にご奉仕させていただく中で、改めて神社の運営が各地域の皆様のご尽力により保たれていることを感じるようになりました。それと同時に祭典については人手不足が

顕著となっていることも感じました。

隠岐の島は離島であり、別の地域の人手を頼るとしても島の中で物事を完結していかねばなりません。それぞれの地域内で行ってきた特色のある神事を「これまでと変わらない形で続けていきたい」「次の世代に繋げていきたい」という強い思いの中、氏子の皆様にはなんとか形を保っていただいています。

一方で、人手不足についてはどの地域においても大きな課題ではありますが、この神社や地域に対する「なんとかしたい」という思いから生まれる大きな力は、神道の持つ大きな可能性と考える事ができます。私は神職として奉仕することで氏神様の御神徳を氏子の皆様とともに共有し、神社や地域に対するこの「想い」を保つお手伝いをさせていただくことで地域活性化に貢献することが出来ればと考えています。本年も皆様に良き年となることを祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

祭 併 新 嘗 祭



十一月十二日神社庁神殿において例祭併せ新嘗祭が青木顧問他役員支部長及び関係者参列のもと斎行された。

祭典奉仕者

斎主 忌部 正孝(庁長)

副斎主 森 眞史(祭祀委員)

祭員 野上 郁子(祭祀委員)

祭員 金築 知宏(祭祀委員)

祭員 錦田 充子(女子神職会・簸川支部)

奏楽 牛尾 禎竝(浜田支部)

奏楽 牛尾 麻衣(浜田支部)

典儀 牛尾 充(祭祀委員長)

十一月十二日神社庁神殿において表彰状感謝状伝達式が役員支部長総代参列のもと挙行された。忌部庁長より表彰状並びに感謝状が伝達された。

表彰状感謝状
伝達式



神社庁祭式講師並助教を委嘱

神社庁錬成行事道彦並助彦を委嘱

講師 牛尾 充	濱田護國神社	宮司	再任
講師 森 眞史	野代神社	宮司	新任
講師 野上 郁子	八幡宮	宮司	新任
助教 金築 知宏	島根県神社庁	参事	再任

任期 令和七年十一月一日～令和十年十月三十一日迄

道彦 中田 宏記	物部神社	宮司	再任
道彦 喜和田 公二	出雲大社	祢宜	再任
助彦 藤井 忠美	出雲大社	権祢宜	再任
助彦 古瀬 智彦	出雲大社	権祢宜	新任

任期 令和七年十一月一日～令和十年十月三十一日迄

島根県敬神婦人会総会



十一月二十六日に島根県敬神婦人会(会長 千家礼子)総会が濱田護國神社で開催された。牛尾副庁長他来賓並びに会員約七十名が参加した。



大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

《所在地・照会先電話番号》

大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283

電話 0853-53-2020

《入学試験日・内容》

- 第1次 令和8年2月20日(金)
 - 第2次 令和8年3月21日(土)
 - 第3次 令和8年4月10日(金)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名

同 (選科生) 若干名

予 科(別科生) 若干名

《出願手続締切》

- 第1次 令和8年2月15日(日)
- 第2次 令和8年3月16日(月)
- 第3次 令和8年4月5日(日)

奉納品



太鼓バチ 一組

飯石支部

天満宮 宮司 池田匡史様



注連縄(神殿入口2本、神饌所入口1本)

益田市遠田町 大石信男様

誠にありがとうございました



手水舎注連縄
教化委員会石見部会



庁舎清掃奉仕

十一月五日(水) 島根県神道青年協議会(会長 諏訪
邊裕之)並びに島根県女子神職会(会長 古瀬真由美)
の第十八回合同庁舎清掃を行っていただきました。

庁務日誌

(令和7年11月～12月)

- 11月6日～7日 中国地区神社庁職員研修会 於 広島県(職員参加)
- 11月12日 神社庁例祭併せ新嘗祭 斎主 忌部庁長
表彰状・感謝状伝達式
- 〃 運営検討委員会
- 11月14日 神社総代会出雲部会理事会 於 神社庁
- 11月16日 須佐神社正遷座祭 於 須佐神社(忌部庁長参列)
- 11月17日 須佐神社遷宮奉幣祭 於 須佐神社(本庁使忌部庁長、随員金築参事)
- 11月18日 総務委員会
- 〃 教化委員会
- 〃 第61回那賀支部関係者大会 於 鈴欄別館(牛尾副庁長出席)
- 11月24日 須佐神社正遷座祭直会 於 須佐神社(小野副庁長出席)
- 11月26日 島根県敬神婦人会総会 於 濱田護國神社(牛尾副庁長出席)
- 11月27日～28日 全国教化会議 於 本庁(宮能教化委員長、平林録事出席)
- 12月3日 第46回島根県神社総代会石見部会総会 於 三隅神社(牛尾副庁長出席)
- 12月8日 正・副庁長会
- 12月9日 役員会
- 〃 身分選考委員会
- 〃 研修所運営企画会議
- 〃 階位検定講習会運営企画委員会
- 〃 教化委員会石見部会理事会 於 鈴欄別館(牛尾副庁長出席)
- 12月11日 広報委員会
- 12月26日 ご用納祭



神職任免

(令和7年11月1日～令和7年12月31日)

任	任	任	任	任	任	任免
7・12・20	7・12・20	7・12・1	7・12・1	7・11・1	7・11・1	発令月日
〃	岷神社	柿本神社	八幡宮	〃	高田八幡宮	奉職神社名
〃	出雲市万田町	益田市戸田町	益田市喜阿弥町	〃	大田市三瓶町	鎮座地
兼	兼	本	兼	本	本	兼本務
祢宜	宮司	祢宜	宮司	権祢宜	祢宜	職名
持田金次郎	佐々木尊彦	綾部 未央	綾部 常美	鈴木 柚陽	村田真有美	氏名

神職帰幽

浜田市三隅町 八幡宮 宮司 串崎 紀典
令和七年十一月二十七日 享年七十五
謹んで哀悼の意を表します。

島根県神社庁長 忌部 正孝

神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。
真先 〒六九九・〇七〇一 出雲市大社町杵築東二八六
島根県神社庁 録事 高見幸子 あて
Eメール takami@shimane-jincho.or.jp
※神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

随時募集中

开社☆ガール通信

出雲市内風土記神社巡り

出雲市内の風土記神社巡りに行ってきました。

久武神社

(出雲市斐川町出西1834番地)



久武神社 本殿前階段

出雲国風土記では「久牟社」として記載されています。ご祭神は須佐之男命。創立年代は不詳ですが、元は弥山にあったと言われており四度の移動で

江戸時代中期に今の場所に遷座されたそうです。

本殿は拝殿後ろの階段を上がったところにあります。頑張つて登りましょう！

境内には出西八幡宮もあります。ご祭神は菅田別命。室町時代に地域の氏神として勧請されましたが、明治三年の政府の方針に従って式内社だった久武神社を氏神としたので今は産土神として鎮座されているそう。

私たちがお参りしている間にも地域の方がお参りに来られていました。令和六年に遷宮をされていて、本当に地元の方に大切にされているのだなと実感しました。

波迦神社

(出雲市斐川町三絡2008番地)

出雲国風土記には「波如社」として記載されています。ご祭神は神倭健命・

健部臣古彌命。

宮様にお話をうかがいました。こちらのお社では、現存最古の出雲国風土記を引用した内容の棟札が見つかりました。1551年と1604年のもので、その年代には風土記の写本があった証拠となったそうです。

そしてこちらの幣殿には三品知予さんが描かれた龍の絵が奉納されています。この絵が描かれている板は近くの阿吾神社の銀杏の木だそうです。生で見るとより迫力と気品がありました。



波迦神社

加毛利神社

(出雲市斐川町神氷1779番地)

出雲国風土記には「加毛利社」として記載されています。御祭神は天津日高彦火火出見命・豊玉毘賣命・天津日高日子波限武鸕草葺不合命という神武天皇の祖父母神と父神。また拝殿横には御崎さんと呼ばれている玉依毘賣命という神武天皇の母神もお祭りされている場所もあります。こちらのお社には鳥居の代わりに石柱に注連縄を張ったものがあります。

神社の社名の由来は、豊玉毘賣命が、鸕草葺不合命をご出産の際に周りに多くの力ニが集まり、側に仕えていた神が力ニを掃いてお守りしました。それをとても喜んだ豊玉毘賣命は、その神に「蟹守」の名を与えられました。のちに「カニモリ→カモン(掃部)→カモリ(加毛利)」と変化して今に至る



加毛利神社

そうです。

近くには住宅街もありますが、ここは木々に囲まれた落ち着いた雰囲気のある神社でした。

支部だより

大田支部

物部神社 宮司 中田 宏 記

石見国一宮の物部神社では年間を通して百件を超える祭典を奉仕しております。その中で、今回は年末年始の祭典行事について記します。

十二月初旬、境内の一瓶社にて造酒神事(忌籠神事)を行います。一石の大瓶に蒸した米、糀に神聖な井戸水を入れ、朝夕に攪拌して白酒を造ります。これを十九日の庭火祭にお供えし、正月の御神酒として皆様に振る舞います。

十二月後半に氏子総代とともに煤払いを行ない、大晦日の大祓式、除夜祭、御柱献供式に備えます。御柱献供式はご祭神である宇摩志麻遲命のご祭神としての地位を祝う祭事です。このお祭の特殊なお供えとして、ご本殿外陣に一枚二升の大餅五枚を重ねたものがあります。(写真あり)大餅の下にウラジロとユズリハを敷き、そのまわりには干し柿、みか

んを九個ずつ串に刺したものをお供えします。このお供えは八日の宮巡りが終わるまでお供えします。



御柱献供式のお供え

一月一日午前零時に歳旦祭を執り行い、新しい年が始まります。よく知られている特殊神事としては七日の奉射祭^{ふしやさい}があります。この日、午前六時に七草粥をお供えする若菜御贄神事、続いて昭和天皇祭遙拝式を行ない、午前九時、拝殿にて宮大工の仕事始めをあらわす斧始式の後、奉射祭を行います。奉射祭は当社の重要な祭りの一つで、仲哀天皇が弓矢を射って新羅の敵将塵輪を射殺した故事に由来し、四方八方の邪鬼を祓う神事です。神事後には弓道の上達を願い、奉納弓道大会が行われ、大田市弓友会を始め、地元の中、高、高校の弓道部が参加し

ています。

翌八日の宮巡りは境内外の社のお祭を行ない、夕方に大晦日の御柱献供式にお供えした餅等を下げます。主立った正月行事としては十五日の小豆御贄神事で一段落します。

その他、多くの古来より伝わる特殊神事も含め、祭事の意味を大切にして後世に伝えていくことも大切な神職の使命として神明奉仕に努めてまいります。



奉射祭

編集後記

新しい年を迎え、謹んで聖寿の万歳と国の隆昌を言祝ぎ、氏子崇敬者のご多幸をお祈り申し上げます。

迎えた年の干支は丙午（ひのえ・うま）です。十干と十二支、それぞれに性格を持っており、丙は「陰陽」の「陽」で、「火」を表します。よって、太陽のような明るさや情熱、強い意志を象徴しています。そして午も同じく「陽」の「火」を表します。行動力やスピード、エネルギーを意味しており、勢いがあるのが特徴です。結果、どちらも「陽」の「火」を表すことから、「情熱と行動力で突き進む」や「燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く」といった前進する力強さが見えます。しかし、その一方、勢いが強すぎて歯止めが効かない、大きな変化がもたらされるなど、想像も付かない結果をもたらす可能性も秘めた年回りでもあるように見えます。

かくいう小生が奉仕するお社は本年、本務社がご鎮座八百年、兼務社では正遷座祭を迎えます。干支の力をいただき、情熱と行動力で突き進みながらも、過ぎること無く無事にこの大きな節目を全うしたいと思います。(石)

島根県神社庁報(第三六八号)

発行日 令和八年一月二十五日

発行者 島根県神社庁

編集 広報委員会

委員長 陶山 浩正

副委員長 鳥屋尾 浩

委員長 鳥居 正嗣

委員 江角 恵

委員 石崎 彰矩